令和５年度　岐阜県農政審議会（第１回）　開催結果

１　日　　時：令和５年９月８日（金）　１０：３０～１２：００

２　場　　所：県議会棟３階　大会議室

３　出欠状況

（出席者　以下１８名）

長屋　光征	（岐阜県議会農林委員会　委員長）
山内　登	（岐阜県市長会　下呂市長）
西脇　康世	（岐阜県町村会　副会長　関ケ原町長）
岩井　豊太郎	（一般社団法人岐阜県農業会議　会長） （岐阜県農業共済組合　組合長理事）
櫻井　宏	（岐阜県農業協同組合中央会　代表理事会長）
山内　清久	（全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会　会長）
村下　貴夫	（一般社団法人岐阜県畜産協会　会長）
玉田　和浩	（岐阜県漁業協同組合連合会　会長）
後藤　昌宏	（岐阜県指導農業士連絡協議会　会長）
橋本　涼	（岐阜県青年農業士連絡協議会　会長）
三尾　揚子	（岐阜県ＪＡ女性連絡協議会　会長）
髙田　住代	（岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク　会長）
髙田　禮子	（ぎふ農業委員会女性ネットワーク　会長）
山田　邦夫	（岐阜大学　教授）
神谷　眞弓子	（東海学院大学　学長）
道家　晶子	（岐阜市立女子短期大学　教授）
長屋　紀美江	（公益社団法人岐阜県栄養士会　会長）
堀部　智子	（生活協同組合コープぎふ　副理事長）

（欠席者　以下２名）

藤原　勉	（岐阜県土地改良事業団体連合会　会長）
竹中　昌子	（一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会　会長）

（事務局：岐阜県農政部　以下２６名）

農政部	次長（事務）、次長（技術）、次長（技術）
農政課	課長、技術総括監、スマート農業推進室長、農業研究企画監、 笠松競馬支援室長、競馬監督監
検査監督課	課長
農産物流通課	課長、販売戦略企画監
農業経営課	課長、担い手対策室長
農産園芸課	課長、花き・農業環境対策監
畜産振興課	課長、畜産指導監、飛騨牛銘柄推進室長
家畜防疫対策課	課長、野生いのしし対策室長
農村振興課	課長兼鳥獣害対策室長
里川振興課	課長、水産振興室長
農地整備課	課長、農地防災対策室長

４　内　　容

・「ぎふ農業・農村基本計画（Ｒ３－７年度）」の進捗状況について

・「食料・農業・農村基本法」の見直しについて（情報提供）

５　議事要旨　　別紙のとおり

別紙

令和５年度岐阜県農政審議会（第１回）議事要旨

１　開会

２　農政部次長挨拶

【田口（博史）農政部次長】

・委員の皆様には、お忙しい中、出席を賜り、厚く御礼申し上げる。

・昨年度、「ぎふ農業・農村基本計画」の中間見直し版を策定。策定にあたり、委員の皆様には、集中的に審議いただき、あらためて感謝申し上げる。

・国の「食料・農業・農村基本法」改正に向けた動きを受け、県としても本県の農業・農村が持つ役割を十分発揮できるよう来年度の当初予算編成に取り組んでいく。

・本日は、基本計画に位置付けた各種施策の令和４年度取組状況等について審議いただき、今後の取組がより良いものになるよう意見をいただきたい。

３　会長挨拶

【山田会長】

・「ぎふ農業・農村基本計画」を最終目標に向かって適切に進めるためには、年度ごとに目標達成状況を精査し、実績を評価することが重要。

・委員の皆様からの意見、指摘は次につながる重要なステップであり、忌憚のない意見を伺いたい。

４　議事録署名者の選定

【山田会長】

・議事録署名者に、山内 清久委員と神谷 眞弓子委員を指名。

５「ぎふ農業・農村基本計画（Ｒ３～７年度）」の進捗状況について

【長谷川技術総括監】

・資料１－１および資料１－２に基づき、令和４年度目標達成状況を説明。

【山田会長】

・事務局の説明に関し、はじめに資料１－１について、意見、質問等をいただきたい。

【村下委員】

・飛騨牛輸出量が順調に伸びており、今後は海外の推奨店拡大を図るなど、飛騨牛振興に向け、しっかり取組を進めてもらいたい。

・輸出拡大に必須となる飛騨牛ブランドの維持強化や、伸び続ける輸出を支える飛騨牛の生産基盤強化について、今後どのように進めていくのか。

【桑畑飛騨牛銘柄推進室長】
・県では、優れた繁殖雌牛を残すための保留事業への支援や、牛舎、たい肥舎等の施設整備に対する補助事業に継続して取り組んでいる。また、担い手育成として、令和２年度から美濃加茂市で飛騨牛繁殖研修センターを運営。今後も見直しを加えつつ、継続して取り組んでいく。
・昨年度、鹿児島県で開催された全国和牛能力共進会を経て、今後は肉量の指標である歩留りの改善に取り組み、ブランド力の向上を進めていく。

【村下委員】
・令和１４年に全国和牛能力共進会が３０年ぶりに岐阜県で開催される。よりよい牛づくり、担い手・人づくりを進め、盤石な生産基盤を築いてほしい。
・次回、北海道で開催される全国和牛能力共進会で得られた課題を活かし、９年後の岐阜県大会につないでもらいたい。

【山田会長】
・飛騨牛繁殖研修センターの研修生をいかにコンスタントに集めるかが課題だが、県としてどのように対応していくのか。

【桑畑飛騨牛銘柄推進室長】
・新たな研修生は現在のところ、ゼロ。新たに地域のフリーペーパーやインスタグラムを活用した情報発信など、新しい募集方法も採用していく。
・研修そのものの魅力を引き上げるため、現在、岐阜大学、全農岐阜、県による連絡協議会で課題の整理を進めながら、よりよい体制づくりに進んでいるところ。

【山田会長】
・飛騨牛繁殖研修センターを広く全国に知ってもらうことが大事。情報発信をよろしくお願いしたい。

【神谷委員】
・地産地消率の達成に向け、規格外野菜の利用はできないか。特に学校給食で規格外野菜を利用するシステムはつくれないか。

【河尻農産物流通課長】
・規格外野菜については、６次産業化に加えて、ここ最近、フードバンクへの提供といった視点も含めて直売所や産地との意見交換を進めている。
・従来から県産農産物を学校給食に積極的に取り入れるようＪＡグループ、市町村、県で連携して補助事業などを実施しているところだが、今後は給食センターなどの意見を聞きながら規格外野菜を利用する仕組みが可能か検討していきたい。

【長屋（光）委員】
・地産地消の達成に向けては、地元飲食店の協力が必要。岐阜県は全国的にも飲食店が非常に多いため、飲食店との連携を進められないか。
・地産地消の取組をさらに進めるため、県庁全体で連携した取組ができないか。

【河尻農産物流通課長】
・「地産地消ぎふ応援団」が令和４年で１，４６８者、今年の８月末時点で１，８００者を超え、消費者がその６割を占める。飲食店は全体の２％ほどであり、応援団への参加を促し、毎年４回開催している地産地消フェアで地産地消の店舗だということをアピールしていくことが大切。
・他部局との連携について、商工労働部が実施する「県産品愛用推進宣言の店」に登録された３５５店のうち、飲食店は２３９店舗。登録店舗に働きかけて地産地消フェアへの参加を促すとともに、「地産地消ぎふ応援団」にも加わってもらうことで、常に県産農畜水産物を使う仕組みを検討していきたい。

【山田会長】
・生産者にとって、ＧＡＰ導入のハードルは何か。

【青谷花き・農業環境対策監】
・ＧＡＰに取り組む上での課題としては、様々なリスクを評価・改善し、実践、記録するＰＤＣＡサイクルを回すため、農場における各管理のポイントを生産者に理解頂くことが必要。このため、１８８名のＧＡＰ指導員が取り組み方を丁寧に説明していく。
・また、農薬保管庫や手洗い場、異物混入防止のための防虫ネットなど、施設整備や備品整備が必要。このため、県では、それらに対し補助事業で支援している。

【山田会長】
・丁寧な説明で理解を得るのは容易だが、それを実践することは、生産者にとってハードルが高いと思うため、補助事業による支援は効果的。ぜひ、よろしくお願いしたい。

【岩井委員】
・オリンピック後に岐阜県独自のＧＡＰ制度ができたが、大阪・関西万博に向け、具体的に生産者に対して、どのように働きかけていくのか。

【青谷花き・農業環境対策監】
・大阪・関西万博の食材調達コードにＧＡＰが位置付けられるなど、国際的なイベントをきっかけに、ＧＡＰに取り組むことが時代の流れになっていく。このことを産地にしっかり理解いただけるよう進めていく。
・昨年、ＧＡＰ推進センターと連携し、ＪＡの生産部会の担当者を対象に団体でＧＡＰに取り組むための研修会を開催したが、産地で取り組むことが重要。
・このため、県では、生産部会の事務局にＧＡＰの取組を指導できる組織評価員を増やし、産地の取組を加速できるように進めていく。

【岩井委員】
・オリンピックでは、県産食材を選手村で使ってもらえるよう、何度もイベントを開催し、様々な品目を使用してもらった。
・万博についても、万博への食材供給の仕組みや、どのようにＧＡＰで生産した農産物を使ってもらえるようにするのかを生産者に早めに紹介するよう、お願いしたい。

【山田会長】
・資料１－２を含め、全体として意見、質問等をいただきたい。

【村下委員】
・豚の飼養頭数について、今後も豚熱終息への道筋を見据えながら、県内養豚業の振興を進めてもらいたい。
・野生いのししの豚熱感染が国内でも拡大しており、県内でも感染率が非常に高まっているため、今後の豚熱、また、いのししの動静を見据えた対策について教えてほしい。

【後藤家畜防疫対策課長】
・農場に対する対策については、引き続きワクチンの適正接種を継続していくとともに、飼養衛生管理基準の遵守を徹底していく。
・本県で豚熱が発生して５年が経過したが、ルーチンにならないよう、引き続き、定期的に啓発活動をおこなっていく。

【小川野生いのしし対策室長】
・野生いのししの感染について、本県で最初に感染が確認されて以降、感染数は急増し

たが、少しずつ減少傾向となり、このところ感染率は１０％前後となっている。
・野生いのししでの感染率を減らすため、特に、生息密度の高い地域では、県の猟友会や市町村に協力依頼し、捕獲を強化していく。
・また、定期的に県が実施する調査捕獲だけでなく、市町村が実施する有害捕獲、さらに狩猟でもいのししを捕獲し、浸潤状況の見極めを継続していく。
・さらに、特に感染率の高い地域や各県境付近など、地域的なメリハリをつけ、限られた経口ワクチンを有効に活用し、抗体の獲得率を少しでも向上させていく。

【村下委員】
・家畜伝染病対策は息の長い戦いになるため、引き続き努力願いたい。
・９月５日に九州７県がワクチンの接種推奨地域に指定された。非常に心配しているため、本県でも豚熱が発生しないよう頑張っていただきたい。

【道家委員】
・お茶の共販出荷量について、目標値の達成が難しいようだが、やはり担い手不足が根本的な原因なのか。

【大橋農産園芸課長】
・高齢化に伴う担い手不足が非常に問題となっており、作業受託できる組織の育成を進めていきたいと考えている。
・受託組織が、生産できなくなった茶園を請け負って、引き続き生産を進めていくとともに、地域によっては機械化を積極的に進め、労働力不足を補っていきたい。

【山田会長】
・農産物品種登録出願数および花き種苗登録数について、出願、開発だけでなく、やはり市場の評価が気になる。新しく開発した品種の市場評価はどうか。

【大橋農産園芸課長】
・花に関して、特にフランネルフラワーは、岐阜県ならではの品種として市場におけるシェア率が９９％を超え、売上も単価も伸びている。
・切り花の日持ちが良いこと、フランネルフラワーの独特の風合いが他には類を見ないことから、花束や鉢花で楽しめると市場評価が高い。
・その他品種についても、様々なバリエーションを持っており、花苗あるいは寄せ植えなどにおいて、非常に使いやすいと評価を得ている。

【堀部委員】
・雇用就農者の年齢層と雇用就農者が増加した理由を教えていただきたい。
・地産地消について、コロナが５類に移行し、コープぎふでも生産者との交流を増やしてきている。県としても力を入れて取り組んでいただきたい。
・スマート農業について、現在、どういった場で活用されているのか。

【後藤担い手対策室長】
・雇用就農について、最近の資材高騰等の大きな影響もあり、初期投資がかかるという課題がある中、まずは雇用という形で農業の経験を得る、資金を蓄える新規就農希望者も多く、雇用就農が伸びている。
・雇用就農者の年齢、年代について、今までデータを取っていなかったため、今後データを取り、分析していく。

【河尻農産物流通課長】
・令和３年度に「ぎふ農業・農村基本計画」を策定した際、「食」に関する基本方針のトップ項目に地産地消県民運動の推進を掲げ、取組を進めているところ。
・今年度から５圏域ごとに県内の直売所に子供連れや家族連れを招き、生産者とのふれあいや農産物について学ぶ機会を設けており、引き続き取り組んでいく。

【富田スマート農業推進室長】
・スマート農業について、現在県内では、稲作など土地利用型農業を中心に、直進アシスト機能の付いたトラクターや田植機、収穫時に収量を測定して自動走行できる収量コンバイン、ＧＰＳ機能の付いた農薬散布用のドローンなどが導入されている。
・令和４年度末に県内に導入されたスマート農業機器は８５４件であり、約７割の５４３件が土地利用型作物。施設野菜では、環境データを測定できる環境モニタリング機器などが１８５件導入されている一方、露地野菜では、まだ導入は進んでいない。

【岩井委員】
・酪農について、乳牛頭数が減少してきたということだが、一般の方の健康志向といった観点で牛乳の消費拡大はできないか。
・野菜の消費拡大について、愛知県では個人当たりの消費量が少ないというデータを見た記憶があるが、岐阜県の野菜の個人消費量はどうか。

【長屋畜産振興課長】
・消費拡大に向けたＰＲについては、乳業関係、酪農関係の関係者から意見を聞きながら進めており、すでに県内産１００％の牛乳を提供している県内全小中学校以外のと

ころへ入り込めないか検討している。
・一般の方の消費については、全国酪農組織も従来から消費ＰＲに取り組んでおり、引き続き地道な努力を継続していく。何か良い案があれば、提案等いただきたい。

【岩井委員】
・引き続き消費拡大をよろしくお願いしたい。野菜はどうか。

【東販売戦略企画監】
・平成２８年の厚生労働省調査によると、野菜の平均摂取量について、岐阜県は全国で男性が３８位、女性が３３位。
・地産地消フェアや、量販店等が農産物直売所とイベントを行う等して地産地消を啓蒙しており、その際には、健康福祉部と連携し、ぎふ野菜ファースト運動とあわせて野菜の摂取を推進しているところ。
・１日の野菜目標摂取量は３５０グラムであり、当時の調査では岐阜県男性の平均摂取量は２７３グラムと目標に対して７８％。摂取量を高めるため、農政部と健康福祉部で一緒になって推進していきたい。

【玉田委員】
・岐阜鮎海外推奨店の認定を積極的に進めており、先日もマレーシアで店舗認定した。
・鮎は塩焼きが１番だが、料理の仕方が悪いとせっかくよい鮎を輸出しても、おいしく食べてもらえず広がっていかない。料理方法を研修するシステムを作ると推奨店も増えると思うため、検討してほしい。

【金武里川振興課長】
・鮎の塩焼きの方法は、YouTube 等に動画をアップしている。特に清流長良川あゆパークが鮎の塩焼きに力を入れており、その方法を広く発信し、岐阜県の鮎のおいしさも併せて広めていく。
・来年度は「清流の国ぎふ」文化祭２０２４にあわせて鮎料理フェアを開催し、岐阜県の鮎の食文化、伝統的な調理法や新たな調理法を国内外、更には世界に発信していきたいと考えている。

【櫻井委員】
・地産地消率について、地産地消運動実施店舗における県内で生産される主要品目（農産物）販売額のうち、県産農産物の占める割合というのはどういう意味か。
・未達成の理由が天候の影響によって出荷減少したとあるが、分析はこれでよいのか。

【河尻農産物流通課長】
・地産地消率は、岐阜市の中央卸売市場で取扱いが多い野菜１０品目と果実２品目を主要１２品目（農産物）とし、県内量販チェーン４店舗における主要１２品目の販売額のうち、県産農産物が占める割合を４月と１０月の年２回、定点調査して算出している。
・分析については、生産現場やバイヤー、卸売市場の関係者と検証した結果であり、調査時期の天候不順により、県産農産物の入荷が少なく、店頭に並ぶ量が少なかったため、結果的に県産農産物の割合が少なくなったと整理している。

【櫻井委員】
・計算方法はよいが、生産者側からするとこれが主要品目の地産地消率と言われるのが、理解しにくい面がある。

【河尻農産物流通課長】
・地産地消率は、専門家や現場バイヤーからの意見を踏まえ、実態に近い算出方法としている。
・地産地消の機運を高める取組を進める中、例えば「ぎふ地産地消応援団」の数が増え、フェア参加店舗が増えたといった成果が得られており、取組は広がっていると認識している。
・今年１０月と来年４月の調査値が令和５年度実績となるため、店舗チェーンと連携し、対応していきたい。

【山田会長】
・現状では、この指標の算出方法が一番実態に近いということだが、未達成の理由を、天候の影響だけで整理するのはどうかという意見もある。効果が出るまで時間がかかるかもしれないが、地道な活動をお願いしたい。

６　情報共有　「食料・農業・農村基本法」の見直しについて

【古田農政課長】
・資料２－１および資料２－２に基づき、「食料・農業・農村基本法」の見直しに係る中間取りまとめについて説明。

【山田会長】
・国の動きを踏まえ、県の次期基本計画作成に向けた審議を本審議会の場で行うこととなるため、委員の皆様には協力願いたい。

７　意見交換

【山田会長】

・議題以外にも岐阜県の農業・農村の振興について、皆様から意見があれば頂戴したい。

【髙田（禮）委員】

・今年度の改選により、女性が参画していない県内の農業委員会はゼロとなった。
・現在、岐阜県では女性農業委員が９９名、女性最適化推進委員が１７名と女性の割合は全体の１５．１％であり、国が掲げる女性登用率３０％には届いていない。
・岐阜県は、農政部長が女性ということもあり、県としても農業委員会における女性登用率の向上を目指して積極的に取り組んでいただきたい。

【山田会長】

・どの分野でも、男女平等で活躍することは非常に大事である。貴重な意見、感謝する。

【神谷委員】

・最近、小中学生でも不登校の子供が増えた。勉強だけが小中学校の義務教育が果たす役割ではなく、子供のうちから岐阜県ならではの経験をさせることが大事。
・アグリカルチュラルスタッフ・エデュケーショナル・プログラムや農業人の育成プログラムのように、子供のうちから岐阜県ならではの農業生産に親しむ機会を取り入れてほしい。

【山田会長】

・食育、花育という言葉があるが、小さいころから花に触れて育った子供は、将来花を購入するというデータも出ており、こういった活動の必要性を感じている。

【山内（清）委員】

・高温対策が最大の課題になるかと思うが、県でも是非、きめ細かなデータ収集を行い、高温障害に関する対策をお願いしたい。

【大橋農産園芸課長】

・高温対策については、新たに高温対策のための管理技術や肥培管理を見直し、農家への早め早めの情報提供と対策を講じていきたい。
・また、トマトの「麗月」という品種は、裂果を防いだり、多収で日持ちがする品種であり、高温にも強いという点で期待をしている。
・このように、品種と、肥培管理などの管理作業の面から高温対策を講じており、今後も研究を進めて必要な対策を講じていく。

【山田会長】
・意見も尽きたので、本日の審議を終了する。
・委員の皆様においては、長時間にわたる審議、並びに議事の円滑な進行にご協力いただき感謝する。

８　農政部次長挨拶

【田口（博史）農政部次長】
・長時間にわたる審議、また、意見に加え、多くの提案をいただき、感謝する。
・いただいた提案について検討を重ね、今年度後半の取組、来年度の予算反映を目指しいきたい。
・今後もそれぞれの立場から、農政の予算獲得にお力添えをいただき、ご助力願う。